

千葉県立鶴舞看護専門学校 学校関係者評価実施報告

千葉県立鶴舞看護専門学校では、「令和4年度自己点検・自己評価結果概要」をもとに、学校関係者評価を実施したので、以下のとおり報告します。

1 実施年月日

令和5年9月15日(金) 14時～15時30分

2 学校関係者評価会議出席者

近隣教育機関、近隣保健医療施設、実習施設、有識者(非常勤講師)、看護職能団体、卒業生に出席を依頼しました。

3 実施内容

事業概要、自己点検評価の結果説明、今年度の取り組みを報告し、質疑応答や意見交換を行いました。

《今年度の取り組み》

- ① 新カリキュラムを予定どおりに実施し評価する。
- ② 臨地実習における学生の安全教育、安全対策を強化する。
- ③ 業務改善を行い、教員が授業準備・自己研鑽のための時間をとれる体制を作る。
- ④ 学生個々に合わせた学習支援をタイムリーに行う。
- ⑤ 学生の学習方法の多様化と業務改善推進に向けて ICT 活用を促進する。
- ⑥ 教員個々が自己の役割を認識し、チームの中で力を発揮する体制を整える。

4 学校関係者評価・意見

主なご意見は以下のとおりです。

大項目	主なご意見等
I 教育理念・教育目的	・ 教育理念・教育目的ともに専門職業人として豊かな人間性を育成することが組み込まれている。
II 教育目標	・ 教育目標も同様に適切に組み込まれており、新カリキュラムにおいて先生方で十分に協議をされたと感じた。 ・ 育てたい学生像が表れており、とても良いと思った。
III 教育課程	・ 教員の教育・研究活動の充実のために、当事者の会などが主催する学びの場にも目を向けていくことが必要だと思う。 ・ 臨床指導者対象の研修会開催等も協働体制の構築の上で重要と思う。 ・ 人員不足の中でオンラインの推進も含め、業務内容の見直しは必須であり、実習施設との協働体制は必要であると思う。
IV 教育活動	・ 学生が主体的に学ぶ環境づくり、学習のモチベーションをキープするための働きかけを日々工夫されていると思う。 ・ 当事者講話を組み込む機会を作り、学生の学びの幅を広げる動きは、今後もぜひ

	<p>継続していただきたい。</p>
V 経営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制約がある中で、ICT 環境を整えており、Googleclassroom などが使用できることによって、スムーズなフィードバックが可能になったことは大きかった。 ・ 限られた予算の中でも財源確保に苦労されていることと思うが、5年10年先を見越して計画していくことが必要であると思う。
VI 入学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丁寧で充実した募集活動がされていると思う。定員数を確保できたというだけでなく、辞退者が少ないということも大きな成果だと思う。 ・ 学生獲得と国家試験合格率の相関性から、指導・支援の変化と、量と質の両方を求める苦悩を伺い知ることができた。 ・ 学生寮もあり、とても良い教育環境であることを、これからもPRしてほしい。
VII 卒業・就業・進学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里帰りdayは、卒業生にとって自らの学びのルーツを振り返る機会となり、学校にとって専修学校としての在り方を考える機会となっているようである。 ・ 卒業後も卒業生の就職先との連携で、卒業生の様子を気にかけているところがすばらしい取り組みだと思った。 ・ 里帰り day や就業先からのアンケートを実施する等、評価できる。 ・ 里帰り day の取り組みは、卒業生や教員にとっても相互に良い成果が得られるのではないかと思う。卒後1年目に限らず、卒後2年目以降にそのような取り組みがあると良い。
VIII 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの意義や目的を明確にして活動ができると更に良いと思う。 ・ 学生が自ら活動に取り組んでおり、継続する意思もあるということで今後発展していくことを期待する。
IX 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多忙な中でも研修会や学会で発表されている。臨床と協同して研究などに取り組むことも検討したい。 ・ 研究心の高い看護職の育成のためにも、先生方が「研究活動を実践できている」と実感できるようになると良いと思う。
自由なご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハラスメントについて様々な施設で話題に上がることが多い。今後、意見交換をしていきたい。 ・ 前年度の評価をうけて次年度に活かす取り組みがされている。ハラスメントに関してもしっかり現状を把握し、ハラスメントは許さないというトップマネジメントの本気さが伝わった。 ・ 社会人基礎力について問題が上がっており、この問題は学校だけではなく、入職後の現場でも取り組んでいくべき課題だと思う。 ・ 社会人基礎力の向上は、学校だけで完結することは、到底困難であり、教育機関、地域社会、職場などで協働して育んでいければ良い。 ・ 鶴舞の教員は情報共有がしやすく、実習指導の対策も立てやすく順調に進む。今後も、協力して指導を行いたい。

5 終わりに 今後も、学校関係者評価会議を継続して開催し、学校外部からの評価をいただく機会を設けながら、学校活動全般に関する質の向上を図ってまいります。